

そう だい
総 題 「イザヤ」

だい か し どうしや き き
第 2 課 指導者の危機

すずき ゆうと
鈴木 優人

いち あんそくにちごご
1. 安息日午後

よ し どうしや ひとびと せいかつ あ よ せいかつ おく
良い指導者がいないところでは、人々の生活は荒れてしまい、良い生活を送ることができません。

きゅうやくせいしよ じ だい おうこく てきせつ し どうしや
旧約聖書の時代、ユダ王国には適切な（ふさわしい）指導者がいないときがありました。

けっか かな てきごと
その結果、悲しい出来事がおこっていきます。

こんしゅう しよろくしやう てきせつ し どうしや たいせつ まな
今週はイザヤ書 6 章 から、適切な（ふさわしい）指導者がいることの大切さを学びます。

に にちようび おう し
2. 日曜日：ウジャ王の死

しんでん こう た ほうし みと しそん さいし
神殿で香を炊く奉仕をすることが認められていたのは、アロンの子孫である祭司だけでした。

しかし、ウジャ王は祭司ではないのに、自分の王としての権威（地位や強い権力）を誇って（得意になって見
せびらかして）、勝手に香を炊いてしまったところ、神様から（ウジャ王を）汚れた者とされ、重い皮膚病にされ
てしまいました。

いっほう まぼろし かみさま み けんそん ひか たいど じぶん
一方で、イザヤは 幻 のうちに神様を見たときに、謙遜（へりくだる・控えめな態度をとる）になり、自分の
弱さを認めました。

すると、天使によって清められ、イザヤは預言者としての働きを任されたのでした。

ウジャ王の病気は、神の民の道徳的（生活マナーや日頃の行い）状態が病気のように良くない状態
あることを表しています。

ウジャ王が亡くなると、神の民には指導者がいなくなりました。

そういうときは外国から攻められやすいですが、イザヤは全てのことが神様の支配の中にあるということを預言
で示され、励まされました。

さん げつようび せい せい せい ろく いち よん
3. 月曜日：「聖なる、聖なる、聖なる」（イザヤ 6：1-4）

せいしよ か おお よげんしや てき くる まぼろし う
聖書を書いた多くの預言者たちは、イザヤのように敵に苦しめられているときに 幻 を受けました。

苦しみの中にあるときであっても、神様がすべてを支配してくれているということがわかる 幻 は彼らにとって
の励ましでした。

ヨハネが黙示録で書いている天の神殿の様子は、イザヤが 幻 で見たものとよく似ています。

わたしたちも時々、^{ときどき} 聖霊^{せいれい}に対して^{たい}※3 頑^{かたく}なになってしまう^{とき}時があるかもしれません。

そのような^{とき}時があっても、神様^{かみさま}は何度も^{なんど}何度もわたしたちに^{うった}訴えかけてくださいます。

イザヤは^{よげん}預言を通して^{わたし}私たちにとって一番^{いちばん}素晴らしい^{すば}指導者^{しどうしゃ}であるイエス様^{さま}を^{さしめ}指し示してくださったのです。

ですから、イエス様^{さま}に^{すべ}全てを^{ゆだ}委ねることができるようになりたいです。

※1 ^{かたく}頑^{こば}なに^{つよ}拒む^{こば} : 強く拒む

※2 ^{こば}拒む^{ことわ} : 断る

※3 ^{かたく}頑^きな^{ようす} : 聞こうとしない様子

7. ^{なな}金曜日^{きんようび} : ^{けんきゆう}さらなる研究

ネヘミヤが^{いの}祈りの^{ひと}人であったことは^{わす}忘れてはなりません。

エズラもネヘミヤも^{おう}王の^{たす}助けがなければ^{なに}何も^な成し^と遂げられませんでした。

しかし、^{かみさま}神様の^{はたら}働きによって^{おう}王の^{こころ}心^かが^か変えられていったのです。

そして、それだけでなく、「^{じぶん}自分には^{なに}何が^{かんが}できるのか」、ということもよく^{ひつよう}考^{かんが}える^{ひつよう}必要があります。